第21回企画展「戦国時代の金とガラス」の後期展示替品

１．展示期間：平成26年10月18日（土）～11月9日（日）
２．展示場所：一乗谷朝倉氏遺跡資料館 展示室（企画展会場）
３．展 示 数：国指定重要文化財５点を含む10点
４．そ の 他：展示解説を行います　平成26年10月18日（土）10:30～11:30

○　国指定重要文化財　肥後阿蘇氏浜御所（ひごあそしはまのごしょ）出土品　４点

・ガラス皿　１点
・黄金延板　１点
・白磁製置物　２点（唐獅子・獏）

出土遺跡：肥後阿蘇氏浜御所跡
時　　代：戦国時代
所　　蔵：熊本県教育委員会

熊本県の南東部、上益城郡山都町に位置し、現在県立矢部高校が所在する肥後阿蘇氏浜御所跡は通称「浜の館」といわれる。浜の館は宗教的な権威と中世的な地域支配権を伸ばしてきた大宮司といわれる阿蘇氏の館跡である。高校改築等の際に発掘調査が実施され、礎石建物や掘立柱建物が複数棟確認された。うち１棟の礎石建物に隣接して庭園跡が発見された。池の汀線（みぎわせん）の近くに土坑が２カ所確認され、その中から多くの貴重な遺物が出土した。

一つの土坑からは鳥型水注などの華南三彩が、もう一つの土坑からは白磁製置物２点（唐獅子・獏）と黄金延板１点、玻璃製杯（はりせいつき）３点がまとまって出土した。これらの遺物は宗教的儀式に関連する遺物群と考えられる。埋納者は、浜御所の当主である阿蘇大宮司であり、時期は浜の館が島津氏の侵入によって落去する天正１２年（1584）前後であろうと推定されている。

今回の展示では、国指定重要文化財２１点のうち、同一土坑から出土したガラス皿１点、黄金延板１点、白磁製置物２点（唐獅子・獏）の４点を展示する。ガラス皿は、一乗谷で出土した紫色のガラス皿との形状や大きさ、型成形で製作されている点などの酷似している点が興味深い。異なるのは、透明無色のガラス皿であることである。ただし、腐食して白濁している。

展示する資料は、九州地方でも公開された例は少なく、本州初公開となる貴重な資料である。戦国時代の遺跡から出土したガラス皿は４遺跡、計６点存在する。後期展示では、展示可能な資料４点を全て展示していることとなる。

＜出土例＞　・一乗谷朝倉氏遺跡（福井県）　１点
・中世大友府内町跡（大分県）　１点
・大友氏館跡（大分県）　１点
・肥後阿蘇氏浜御所（熊本県）　１点（他２点は脆弱資料のため、展示不可）

○　国指定重要文化財　孔雀鎗金経箱（くじゃくそうきんきょうばこ）　１点

時代：中国元時代
所蔵：西福寺蔵（福井県立歴史博物館保管）

浄土宗の西福寺（福井県敦賀市）に伝わる漆器の経箱である。同様の鎗金経箱は我が国に数例しか現存しない。蓋裏面の名から元代延祐二年（1315）頃に明慶寺前の宋家という民間工房で作られたことが類推される。この経箱には「鎗金（そうきん）」という漆工芸品に施される装飾技術がもちいられ、孔雀の文様が表されている。漆塗の面に浅く文様を線刻し、その部分に漆を擦り込んで金箔を付着させる技法である。この技術を日本では「沈金（ちんきん）」という。蓋および短側面には双鸚鵡（そうおうむ）、長側面には双孔雀（そうくじゃく）をあらわす。

○　武田・上杉　川中嶋大合戦の図（たけだ・うえすぎ　かわなかじまだいかっせんのず）　１点

時代：江戸時代
所蔵：山梨県立博物館

永禄４年（1561）に起きた川中島合戦における決戦のハイライトともいうべき武田信玄と上杉謙信の一騎打ちの伝説を描いた木版多色摺の浮世絵である。作者は江戸時代末期を代表する浮世絵師、歌川国芳（うたがわくによし）である。

○　織田信長公居館跡出土金箔瓦　４点

・金箔瓦　２点
・金箔瓦復元品　２点
出土遺跡：織田信長公居館跡
時　　代：室町時代
所　　蔵：岐阜市教育委員会

岐阜県金華山の麓では戦国時代に日本統一を目指した織田信長の居館跡を、岐阜市教育委員会は近年勢力的に発掘調査している。その居館跡から出土した金箔瓦は、現時点では城郭に用いる日本で最初の事例となる重要な資料である。居館の中心建物の屋根は檜皮葺（ひわだぶき）などで、棟（むね）部分を金箔瓦で飾っていた可能性が高くなるなど、その姿が具体的に考えられるようになってきた貴重な資料といえる。

この展示資料は、全国各地の博物館施設からの借用依頼が殺到しているもので、NHK 大河ドラマ特別展「軍師官兵衛」の終了後では、当館が初の展示となる。